

情報通信審議会 情報通信政策部会

IoT新時代の未来づくり検討委員会

第1回 人づくりワーキンググループ 資料

OKIワークウェルにおける 重度肢体障害者の在宅雇用について

2017年11月28日
OKIワークウェル

目次

本日のプレゼン

1. **OKIワークウェルの概要（OKIの特例子会社）**
 > **重度肢体障害者の在宅雇用**
2. **特別支援学校との連携**
 > **テレワークシステムを障害者支援教育に活用**

1. OKIワークウェルの概要(OKIの特例子会社)

(1) 社員構成

- ・全社員数81名のうち障害者69名
- ・障害者69名のうち重度障害の在宅勤務者49名

(2) 特徴

- ・通勤の困難な重度肢体障害者49名が、自宅でパソコンとネットワークを活用してソフトウェア関連の業務をおこなっている。
居住地は首都圏中心に、北海道から鹿児島まで21都道府県にまたがる。
- ・業務時間帯はメールやバーチャルオフィスシステムを使って、本社メンバーや在宅勤務者間で頻繁に連絡を取り合って仕事を進めている。

(3) 主な事業内容

- ・ホームページ制作
- ・Webシステム開発(顧客管理システム、研修管理システムなど)
- ・総務業務(採用メール処理、就業データ集計、研修申込み受付など)
- ・冊子類の編集、各種デザイン
- ・「障害者委託訓練eラーニング」(東京都、宮崎県などから受託)
- ・名刺作成(画面作成は在宅勤務者、印刷は事務所社員)

懇親会の集合写真



1-(1) テレワーク(在宅勤務)セキュリティシステム

- (1) 社内標準パソコンを貸与(個人PCの業務利用不可)
 - ※オフィスと同様のウイルス対策
 - ※外部記憶媒体(DVD,USBメモリなど)への書き出し不可
- (2) 自宅からインターネットVPNで社内LANに接続
 - ※会社から毎月、通信費4,000円、電気代3,000円支払う
- (3) 電子メール、ファイルサーバ、イントラネットWebなどオフィスと変わらないPC作業環境
 - ※資料や作成ファイルはファイルサーバ上で共有

1-(2) コミュニケーション

(1) 日常のコミュニケーション

① 在宅雇用発足当初は、主に電子メールと電話を使用

- ・内容についての勘違いを無くし、なおかつ気持ちがつながるよう、電子メールに頼るのではなく特に電話での肉声のコミュニケーションを重視する

② 07年頃からはワークウェルコミュニケーター(WWC)を活用

- ・在宅勤務者が増えてからは、バーチャルオフィスシステム「ワークウェルコミュニケーター」により、オフィスに居るのと同等のコミュニケーション環境を実現できるようになった

(2) 全員集合の懇親会が年1~2回

(3) 年2回のコーディネータとのスキルアップ面談

① 本人希望業務と受注予定業務の調整

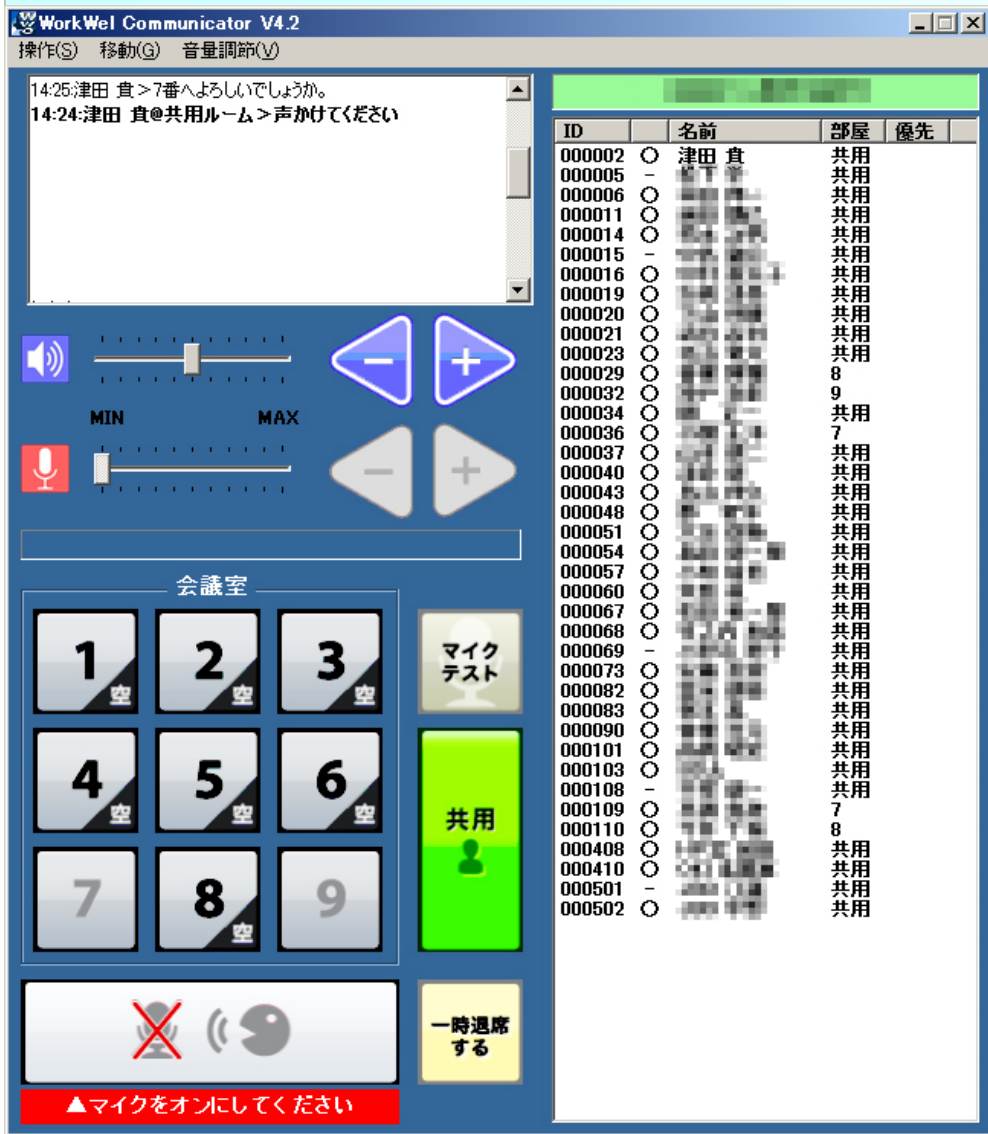
② 今後のスキルアップ内容と方法の意識合わせ

※方法の中心は、技術分野別の社内勉強会

③ 会社への要望

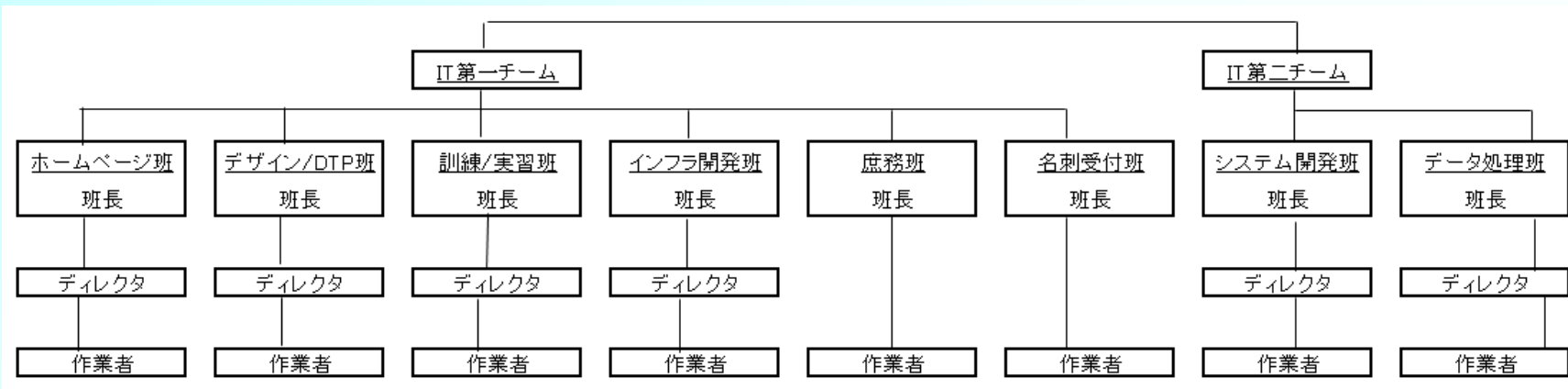
1-(3) ワークウェルコミュニケーター® (WWC) の紹介

ユーザの画面

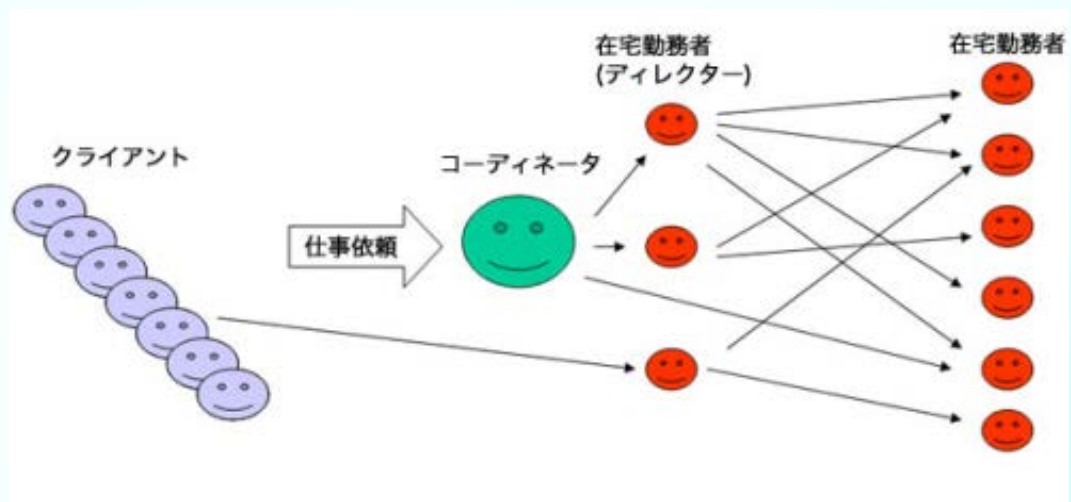


- ① 10個（共用+9つ）のバーチャルな会議室があり、複数のプロジェクトが同時に打合せできる。「共用」が居室のイメージ。
- ② 接続しているメンバー全員の名前が表示されており、現在どの部屋にいるかのプレゼンス情報が表示される。
- ③ 会議中のメンバーに打合せ資料のフォルダを示すなどのメッセージ送信が可能。
- ④ 音声読み上げソフトにより視覚障害者も操作しやすいので打合せに参加できる。
- ⑤ 耳は聞こえるが声が出ない人には、テキストの自動出力機能があり、打合せに参加できる。

<在宅勤務の組織運営>



基本的な班の
運営方法



- ・班単位の運営を基本とし、定期的に進捗会議をおこなう。さらにプロジェクト毎に、細かなスケジュールリングや品質管理について適宜ミーティングをおこなう。
- ・「ワークウェルコミュニケーター」を活用し、バーチャルオフィスを実現している。

1-(4) 勤務形態

(1) 勤務時間

- ・1日6時間(希望者は7時間契約も可)
- ・標準の勤務時間帯は10:00～17:00

各自の介助サイクルにより、勤務時間帯を個人別に設定

(2) 出社の有無

- ・定期的な出社義務は「無し」
- ・必要に応じて、ユーザとの打合せ参加は有り

(3) 給与

- ・時給制、賞与あり。コーディネータが業務評価する。
(時給は、ベース金額＋スキル項目別評価給)

(4) 身分

- ・在宅勤務契約社員
(正社員よりも障害内容応じた柔軟な勤務形態が可能)

1-(5) 労務管理

(1) 業務の開始/終了はメールで連絡

- ・在宅勤務社員は業務開始時に、在宅勤務者全員と会社
に挨拶メールを出す。(朝のタイムカード代わり)
- ・在宅勤務社員は業務終了時に、勤務報告書を添付し会社
に終了メールを出す。(帰りのタイムカード代わり)
- ・現在は、グループウェアの就業管理システムで運用。

(2) ワークウェルコミュニケーター活用

- ・WWCにより、頻繁にコミュニケーションする環境にあるため、
オフィスと同様な労務管理と生産性向上が可能

(3) 健康管理

- ・体調が悪い時は、無理せず会社に連絡し休む。コーディ
ネーターはメンバー入れ替えや納期調整する

1-(6) 採用

(1) 採用基準

- ①社会性がありコミュニケーションができること(「報告・連絡・相談」ができることで、話が巧みという意味ではない)
- ②情報処理の基本的な知識が必要で、情報処理技術者試験合格が望ましい。(電子メールを中心に、セキュリティ対策、ファイル操作、インターネット検索などのパソコン基本技術が重要で、WordやExcelは必須ではない)業務に必要な高度なITスキルは入社後に訓練する。

(2) どこから採用か

- ①最初は、重度障害者にIT教育をする社会福祉法人の紹介。
- ②会社設立頃からは、本人から直接問合せが多くなった。
- ③現在は、弊社実習修了の特別支援学校生を中心に採用。

2. 特別支援学校との連携



(1) キャリア教育の出前授業

OKIワークウェルでは2011年に肢体不自由特別支援学校を対象としたキャリア教育の出前授業を始めました。

この出前授業では、実際に在宅勤務をしている重度障害のある社員が学校を訪問し講師を務めます。障害があっても多様な働き方ができることを身をもって子どもたちに紹介し、今後のキャリア形成に役立ててもらいたいと考えています。2017年11月時点で、全国36校に実施しています。

【授業内容の例】

- 障害者が働くことについて
- 障害者の多様な働き方について
- 電話とパソコンの重要性について
- 肢体障害者のパソコンの操作方法について
- 「ワークウェルコミュニケーター」を使って、OKIワークウェルの在宅勤務者と会話してみる
- 自立してゆくために必要な心構えについて



出前授業中の様子

2. 特別支援学校との連携

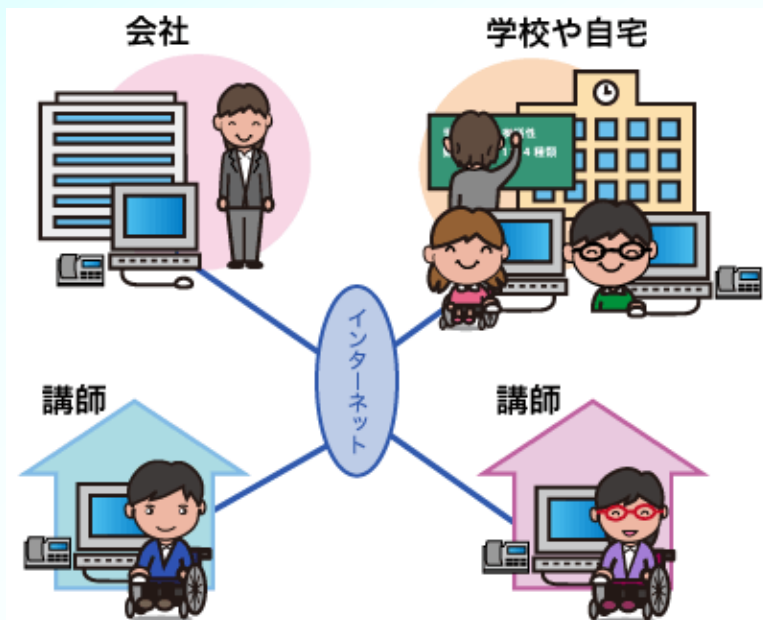
(2) 遠隔職場実習

OKIワークウェルが設立された2004年、都立の肢体不自由特別支援学校から、重度障害のため移動の困難な生徒の職場実習の相談を受けました。

以来、毎年遠隔職場実習を行い、2017年11月時点で連続13年間、全国36校98人が実習を受けています。



実習中の生徒の様子



【実習の例】

- 電話での挨拶マナー
- 電子メールの使い方
- PCの操作方法
- Microsoft® Officeの利用方法
- ホームページの作成
- ポスターデザイン
- プログラミング

【実習を行った都道府県】

- 北海道 / 青森県
- 岩手県 / 茨城県
- 群馬県 / 埼玉県
- 東京都
- 神奈川県
- 静岡県
- 大阪府
- 香川県
- 鹿児島県

2. 特別支援学校との連携

(3) 遠隔社会見学

移動が困難で学校外の社会見学に行けなくても、映像や音声によるコミュニケーションシステムを活用して、あたかも見学地に行ったように疑似体験することができます。もちろんリアルタイムで現地の人に質問することもできて、生徒たちの視野が広がります。

地元の高等専門学校の先生や学生と連携し、技術サポートしてもらうこともあります。

- 2015年12月 小豆島のヤマロク醤油さんを高松養護学校が映像通信で見学
- 2016年12月 ヤマロク醤油さんを八雲養護、北特別支援学校、鹿本学園等が見学
- 2017年11月 北海道八雲町から鮭の遡上を発信し、全国8校から見学



学校内での社会見学の様子